■新建築家技術者集団■　SHINKEN・AICHI・BRANCH・NEWS

新建あいち　2024.3月号

新建愛知支部事務局　：　株式会社 宮工務店 気付　〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25
URL http://nu-ae.com ホームページ(2022 年 4 月～)　TEL　0568-34-7775　FAX　0568-34-7797

■「能登半島地震復興支援会議」が、２月１９日（月）17 時から、オンラインで開催

参加者は、12 名で、復興支援本部（本部長：丸谷博男）として、メンバーを確認しました。1/2 支援金の訴え、1/8・1/15 支援会議、1/28 常任幹事会で本部の立上げ、2/15HP にて、地震支援のアピール掲載をし、当面の進め方としましては、情報収集と発信（HP への掲載)、支援金の訴えと、北陸ブロック会議の開催（金沢１泊　3/5～6）被災地視察と今後の支援についての会議を予定しています。復興支援会議としてやれることなどが外部の人に見える形にする。東日本大震災の教訓を集め、能登の人たちに配布をすることを目的に原稿依頼を呼びかけ、完成させて配布をする予定です。丸谷さんの息子さんが金沢にいて、支援をしていますので、情報交換をしながら、協力をしていきたいとのことです。

能登半島地震復興支援本部

本部長	：丸谷　博男	（東京）			
事務局長	：新井　隆夫	（群馬）、			
事務局次長	：山下　千佳	（東京）			
メンバー	：室岡　耕次	（新潟）、	岩野　克行	（新潟）	
	：池谷　昌紀	（富山）、	西　一生	（富山）、	富樫　豊　（富山）
	：杉山　真	（石川）、	由田　昭治	（福井）	
コアメンバー	：千代崎　一夫	（東京）、	杉山　昇	（東京）	
	：渡辺　政利	（東京）、	久守　一敏	（京都）	
担当常幹	：片井　克美	（福岡）、	甫立　浩一	（愛知）	

愛知支部幹事会で支援金の寄付を決めました。各個人からの寄付も下記の方へお願い致します。
みずほ銀行　新宿新都心支店　・店番号　209　・口座番号　普通預金　3914020
口座名　新建築家技術者集団　シンケンチクカギジユツシヤシユウダン

富山湾から冬の立山連峰を見る

■「能登半島地震復興と居住福祉」

～居住福祉と生活資本の構築(161)

岡本 祥浩

能登半島地震の発生から一月半以上が経過した。この間の復旧復興支援を通して、高齢過疎地やライフラインが崩壊した島嶼部への支援の困難さが明らかになってきた。その困難は、一人ひとりの生活資本の再構築の困難に他ならない。本稿では、生活資本再構築の観点から復旧・復興過程を振り返りたい。

被災自治体の高齢化率は高く、40%から50%を超えていた。新耐震基準前の住宅が6割だった。珠洲市の耐震化率は51%、輪島市のそれは45%で全国平均の87%を下回っていた。珠洲市の被害の甚大だった地区では応急危険度判定で7割を超える建物が「危険」と判定された。道路、鉄道、海路、電気、水道などのライフラインが寸断された。孤立する集落が多数発生した。適切な温湿度や衛生環境の維持、食糧や日用品の確保などの困難が避難所、被災住宅、高齢者施設などで発生した。

至る所での居住環境維持の困難は、感染症のクラスター発生や災害関連死者の増大を懸念させた。それらを防止するため、周辺市町村や石川県外への広域避難が1.5次や2次避難として実施された。こうした広域避難は、応急仮設住宅の建設やみなし仮設住宅の設置と並行して実施された。とは言え、何の問題もなく被災対応や避難が実施されたわけではなく、避難を選択せず被災地に留まる被災者も少なからずおり、日常的に介護福祉のネットワークに関わらない人々の支援も困難を極めた。

能登半島地震の被災から避難に至る過程から被災地域と被災者一人ひとりに関わる生活資本の構築の問題が明らかになってきた。被災地域の問題は、高齢過疎を背景とする被害の拡大と復旧の困難である。年齢構成の高齢と次世代への居住資源の継承困難が、住宅やライフラインの耐震化や維持を困難にしていた。それが住宅の耐震化率などに反映し、住宅の被害をより大きくしたことは否めないだろう。更に、空き家倒壊なども復旧事業に悪影響を与えることが懸念されている。

また広域避難の一人ひとりの生活資本の再構築も今後の復旧・復興に大きな影響をもたらすことが懸念される。広域避難は被災地で適切な居住環境を維持できないことから始まったが、年齢、健康状態、家族、仕事など様々な条件で広域避難の選択は異なる。「被災地に留まる」、「近隣地町村に避難する」、「広域に避難する」、「自らの力で避難する」、「行政の連携で避難する」、「福祉施設などの連携で避難する」など、避難の選択は多様である。生活を支える病院、介護施設、学校、仕事場、友人知人などの社会資源との関係もその選択に大きな影響を与える。

そして人々の避難生活の選択に影響を与える要件は、利用期間と費用負担である。転居は生活資本の再構築を伴ない繰り返されるたびに当事者に大きな影響を与える。当事者は徐々に気力や体力を奪われ、災害関連死をも引き起こしかねない。しかしながら応急仮設、みなし仮設、広域避難など避難居住は期限が設けられ、徐々に被災者の費用負担が大きくなる仕組みになっている。避難者を受け入れた宿泊施設もその受け入れを観光客に移行する判断を迫られている。被災者が、そして社会の年齢構成が若ければ、その費用負担を受け入れる可能性もあるが、能登半島の被災者と被災地にその選択肢は残っていない。

高齢過疎地での一人ひとりに寄り添う生活資本の再構築が希求される。

（中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員）

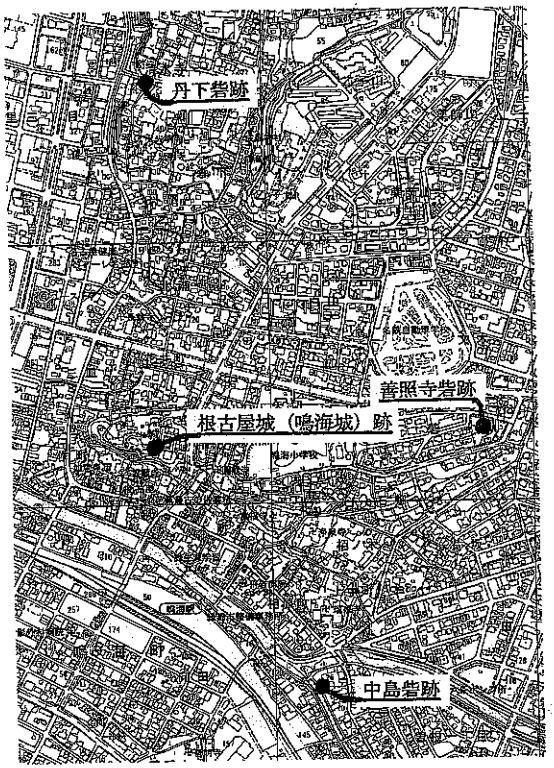
歴史探訪シリーズ㉞ 緑区

鳴海城を睨む織田信長の砦
中島砦

現在の緑区鳴海一帯は、1560年の今川勢力と織田勢力が激しく戦った桶狭間の戦を前に、多くの砦・城を築き、それぞれが戦いに備えていました。今川義元は三河から西への進出をめざし、これを阻止しようとする織田信長の軍勢は黒木川（現天白川）を境にそれぞれ守りを固めていました。

この頃、根古屋城（鳴海城）を守る山口左馬助教継、九郎二郎父子が義元の側についていたこともあって、信長はこの城を攻略しようと、1559年城を取り囲む三つの砦を築きました。一つは善照寺砦、もう一つは丹下砦、そしてこの中島砦です。これらの砦を築いた翌1560年、信長の奇襲によって、桶狭間の戦いが始まりましたが、この戦いで今川義元は戦死、織田信長の勝利に終わりました。このため、この砦・城は意味をもたなくなって取り壊されてしまい、今ではその跡地すらわからなくなっています。

中島砦は、扇川・手越川の合流付近がその跡地とされていますが、この辺りと思われる所の民有地の片隅に碑が残されています。善照寺砦は鳴海小学校の東（現地名に砦とある）の丘陵地とされ、丹下砦は片平小学校南（現地名丹下とある）の丘陵地上にあったとされています。



中島砦碑

■ *新建愛知支部　2024 年 1 月　支部幹事会だより*

1 月 17 日（水）19：00～21：00（オンライン）

リモート参加者／入谷、奥野、黒野、中森、福田、甫立

（1）　北陸地震後の緊急復興支援会議が開催されました。
1/8、1/15 と今後も定期的に開催されます。

（2）　地方自治研究所全国集会 in 愛知の現地会議がありました。5/19、10/5・6 日に開催予定です。

（3）　今年は、集まれる企画をみんなで考え、顔を見て交流のできる支部にしようと話しました。

（4）　支部の皆さまから、企画を募集しまして、楽しめる学べる企画や見学会の開催や提案します。

（5）　職人不足で困らない為に、共同事業化の組織化検討を進める事を決めて、源樹会と連携をします。

（6）　新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化しています。

（7）　「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。

今後の幹事会は、2 月 21 日（水）、3 月 18 日（月）、4 月 17 日（水）午後 7 時からと決めました。

❖❖

■ 『ガウディとサグラダファミリア展』感想

２月１８日（日）に「ガウディとサグラダ・ファミリア展」をみてきました。

名古屋市美術館の開館３５周年の記念企画として、昨年１２月１９日から今年３月１０日まで開催されています。朝９時半から入場できるので、早目に行きたかったのですが、犬の散歩や色々な雑用があり、お昼頃に入館をしました。会場は、日曜日ですので、家族連れやカップルから子供まで沢山の人でした。昔、ガウディを感じた日のことを思い出しました。

僕が現地に行って、ガウディの作品を見てきたのが、バルセロナオリンピックの翌年１９９３年２２歳の時でした。今５２歳なので、約３０年前です。当時、夜間大学生だった僕は、昼間の学生と一緒に夏休みに「欧州建築研修ツアー」に約２週間参加をしました。たくさん行った国のひとつが、スペインのバルセロナでした。現地で見学をしたのが、街中にある、住宅のカサ・バトリョ、集合住宅のカサ・ミラ、郊外にあるグエル公園、そして最後に建設中のサグラダ・ファミリアをみてきました。

僕が一番気になったのが、「生誕の門」の一部を彫刻されている外尾悦郎さんです。その後も、たくさんの彫刻や修復をされています。また、螺旋階段で上がれるところまで登ったのが印象的でした。１８８２年に建設が始まり、１９２６年にガウディが死去、２００５年に世界遺産登録、２０１０年にローマ教皇による初ミサ、２００６年に完成予定と言われています。ご興味のある方は是非、訪問して下さい。

（甫立　浩一）